

大阪教育大学

修学支援センター活動報告

2022 年度 第 3 号

目次

巻 頭 言・・・・・・・・・・・・・・・・大内田 裕（1）

障がい学生修学支援ルーム活動報告・・・・・・・・茂野 仁美（2）

カウンセリングルーム活動報告・・・・・・・・奥田 紗史美（7）

活動報告総括・・・・・・・・茂野 仁美・奥田 紗史美・小馬 加奈子（12）

2022 年度活動日程報告・・・・・・・・・・・・（23）

修学支援センタースタッフ一覧・・・・・・・・・・・・（24）

大阪教育大学修学支援センター

巻頭言

修学支援センター長 大内田裕

猛威を振るったCOVID-19も2類感染症から5類感染症に移行され、社会生活もほぼ通常通りになってきました。この感染症のパンデミックにより、私たちは様々な不便なことを多く経験すると同時に、当たり前に行ってきたことも実は行わなくても、それほど不便や問題ないことにも気づかされました。例えば、通勤や通学においても、会社や学校にいかなくても在宅で仕事を行うテレワークやリモートワークが取り入れられ、一定以上の成果をあげてきました。また、パンデミックによる社会的隔離でも欲しいものを自宅まで届けてくれるオンラインショッピングやそれを可能とするデジタル決済などのデジタル化技術やICTの依存度が大いに高まりました。さらに、習慣に関しても外出先から室内へ入るときの手洗いやマスクの着用といった衛生意識も、以前とは比べものにならないほどに飛躍的に定着しました。このようにコロナのパンデミックは、私たちの生活における行動の本質的な意味や効率などを再評価する機会を与え、必要なものは残しそこまで必要性がないものは廃止される切掛となりました。変革は通常であれば、様々な抵抗が起こるはずですが、そこはコロナのパンデミックへの恐怖により大きな変革を受け入れるようになりました。

このような変化は、学校や大学にも及び支援が必要な学生をサポートする修学支援センター、さらには、アクセシビリティ自体にも当然影響を与えました。特に、修学支援センターが主に行ってきた聴覚障害のある学生に対する講義のサポートは、コロナ禍のオンライン講義への変更により、大きく変化しました。講義がオンライン（オンデマンド型）で行われるようになると、提供される講義動画は、聴覚障害のある学生のために、字幕が付けられるように対応されていました。このため、対面講義で行われる教員の発話内容をその場でパソコンに打ち込み、聴覚障害の学生に提供するパソコンテイクなどが行われる機会も減りました。さらには、対面講義でのパソコンテイクは、二人体制で行われてきましたが、音声文字変換ソフトを利用して一人体制で行うことも可能となり、また、講義をzoomなどの遠隔コミュニケーションソフトで遠隔にいるパソコンテイクに講義音声などを流し、遠隔にいてもパソコンテイクができるようになりました。一方で、講義のオンライン化によりパソコンテイクが必要となる機会が減ることによりアクセシビリティ技術の習得の機会が減り、新しい学生ボランティアが減りました。アクセシビリティは、かなり個人の習得した技術に依存するため、コロナ前に見られた、先輩（熟達者）から後輩（初学者）へ関わりも重要になってきます。そのためコロナによるボランティア学生同士の様々な対面の機会が減ったことにより、これらの技術の継承やモチベーションの維持などに大きく影響を与えました。

ポストコロナに対して、修学支援センターも残すべきことと、改革すべきことを見極め、今後増えるであろう発達障害や精神障害へのサポートもしっかりと対応出来るように準備していきたいと思います。

2022 年度(令和 4 年度)障がい学生修学支援ルール活動報告

コーディネーター 茂野仁美

1. 月別利用状況（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

2022 年度の障がい学生修学支援ルームの使用学生の推移は、以下の表 1 の状況であった。前年度の利用学生が 40 名であったうち、29 名が 2022 年度も継続利用を希望した。一方、新規利用学生数については、前年度（表 2）と比較し大きな変化は見られなかった。2022 年度についても、精神障がいを理由として利用申し込みに至る学生が多かった。

4 月は新入生の新規申し込みがあるため、利用学生数が多くなる。次に 6 月にも新規利用学生が増えているが、この時期、各科目を担当する教員や保健センターから、学生自身が気分的に対面授業への出席が精神的につらいのでオンライン授業で代替してほしいとの申し出があったが、支援ルームの利用学生かとの問い合わせが相次いだり、このように訴えているので支援ルームの利用を紹介したと連絡があったケースである。そのうち、支援ルームの利用に至った学生が 5 名である。精神的な不調で医療機関を以前から受診していた学生、4 月以降に不調となり医療機関の受診に至った学生だけでなく、保健センターから紹介があった学生は医療機関を受診したほうが望ましいが、家族から受診を反対されているというケースであった。

一方で、身体障がいのうち、聴覚障がいの学生で、PC テイクでの情報保障を必要とする新入生のいない年であった。継続利用の聴覚障がいの学生も、情報保障を必要とする学生が少なかった。

年別の推移については、参考の表 3 および図 1 に示している。精神障がい、発達障がい及び、受診に至ることができていない学生も含まれるその他が多くなっている。

表 1.2022 年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の数位（月）

2022年度	視 覚	聴 覚	肢 体 不 自 由	病 弱	重 複	発 達	精 神	そ の 他	柏 原	天 王 寺	そ の 他	新 規	累 計
継続	1	4	1	2		6	12	3	25	4			29
4月				1		1	2	5	7	2		9	38
5月												0	38
6月	1						3	1	5			5	43
7月							1		1			1	44
8月												0	44
9月												0	44
10月							1		1			1	45
11月							2		2			2	47
12月						1			1			1	48
1月							1	1		2		2	50
2月				1				1	2			2	52
3月												0	52
計	2	4	1	4	0	8	22	11	44	8	0	23	52

※複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

表 2. 2021 年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(月)

2021年度	視 覚	聴 覚	自 由 肢 体 不	病 弱	重 複	発 達	精 神	そ の 他	柏 原	天 王 寺	そ の 他	新 規	累 計
継続	2	5		1		3	5		13	3			16
4月		2	1				1	2	4	2		6	22
5月							1		1			1	23
6月						3	3	2	8			8	31
7月				1		1	1	1	4			4	35
8月												0	35
9月							3		3			3	38
10月						1				1		1	39
11月						1						1	40
12月												0	40
1月								1	1			1	41
2月												0	41
3月												0	41
計	2	7	1	2	0	9	14	6	34	6	0	25	40

※複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

〈参考〉

表 3. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移（年）

年度 (和暦)	年度 (西暦)	学生 数	障 が い 学 生 数	在 籍 比 率	視 覚	聴 覚	不 自 由 肢 体	病 弱	重 複	発 達	精 神	そ の 他	柏 原	天 王 寺	そ の 他	新 規	累 計
H24	2012		6		1	4				1							
H25	2013		7		1	4				2							
H26	2014		14		1	6	1			2	1	3					
H27	2015		16		2	6	1			3	1	3					
H28	2016		18		1	3	1			7	1	5					
H29	2017		23		1	8	1	2		6	3	2					
H30	2018	4605	42	0.91%	2	9	2	1		7	7	14					
R1	2019	4496	60	1.33%	4	8	2	6	4	6	17	13	51	5	4	21	39
R2	2020	4349	77	1.77%	3	8	0	5	5	4	15	6	38	7	1	31	46
R3	2021	4350	65	1%	2	7	1	2	0	9	15	6	36	6	0	26	42
R4	2022	4317	52	1%	2	4	1	4	0	8	22	11	44	8	0	23	52

※入学予定者は入学前の面談等を実施した場合は該当年度の新規として扱うが、その後入学した場合は入学年度の新規として扱う。
※2020年度より「重複」の項目を新設し、複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う。H30までは「重複」に該当する学生は「その他」に含まれている。

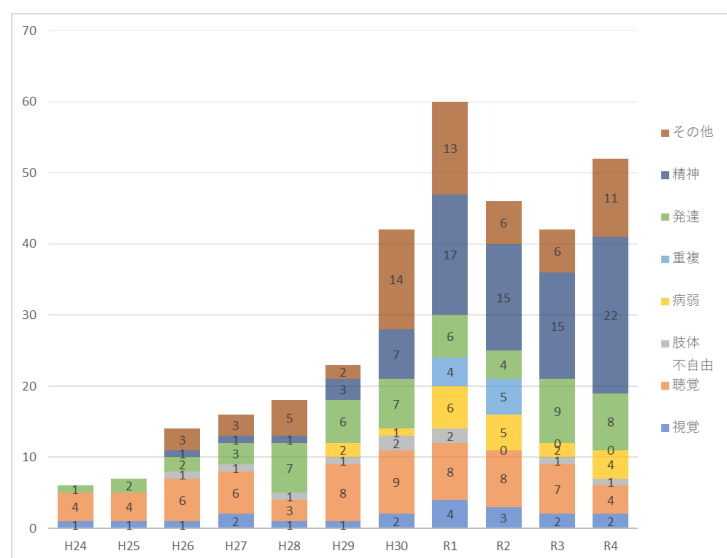


図 1. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(年)

2. 利用方法別状況（2022 年6月～2023 年3 月）

近年、参考値の図 1. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移で示したように、精神障がいや発達障がいおよび受診に至ることができていないその他の学生の利用が増加している。精神障がいや発達障がいなどは、身体障がいのように、その障がいに対して明確に障壁となる事柄が明らかではなく、情報保障や環境調整の方略も明確にできるものではないので、必要な支援の個別性が高くなる。また、日によって症状の強さも異なり状態が一定ではないので、支援や配慮を必要とする日とそうではない日があり、そのことをふまえて対応、調整にあたらなければならない。利用学生の総数だけでは、障がい学生修学支援ルームのコーディネーターが行う調整、対応の実態は表れておらず、業務内容量が明確ではないという反省から、2022 年度6 月より、表 4 に示すように、主な業務及び障がい種別ごとに累計数の計上を行うこととした。一人の学生に対して面談だけではなく、配慮依頼文および情報提供書の作成過程での連絡、教員、他部署との連絡調整等、複数回のやり取りを伴う。特に精神障がいや発達障がいの学生については、連絡、調整中にも状態が変化して、指導教員や

他部署からの情報が寄せられたり、一旦、情報提供書を発行後も、継続的に受講状況の確認、相談を行う必要があり、それは累計数にも反映されている。

表4. 2022 年度障がい学生修学支援ルーム利用方法別累計（月）

	面談							遠隔（電話・メール等）							教員・他部署との連絡調整							累計			
2022年度	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複		発達	精神	その他
6月	1	2		1		1	1	1	6						16	10	1					2	5	1	48
7月		2				1	1			1					34			1				2	22		69
8月		1										1			4	1				1		5	16		31
9月		1				8	3	2	4		3				12	36	9		3			15	18	4	118
10月						6		1	1						20	2						5	11	1	47
11月				2		4	4								3	17						1	5		36
12月				1		4	1								4	5						2	2	2	21
1月				2		3	1								3	3	1						2		15
2月						2		1	1			5		1	2	3	2			1		1	1	1	22
3月	5	1		2		6	5		4	2		1		5	8		4	1		1		5	10		59
計	6	7	0	8	0	35	16	5	16	6	3	7	0	57	124	23	7	5	0	2	0	38	92	9	466

※学生本人への対応に加え、教員や部署間での連絡調整も含む

3. 主な取り組み

（1）原則対面授業再開におけるオンライン対応と合理的配慮

利用状況でも述べたように、精神的な不調によって、コロナ禍での対面が制限された生活でのオンライン授業から、対面を原則とする生活での対面授業になじめないことや、電車に乗って通学することが辛いといった訴えが多く聞かれ、昨年度のようにオンライン課題を代替として取り組ませてほしいと希望する学生が見られた。科目によっては、オンライン課題での代替対応が可能で、教材の提示のある教員がいる一方で、模擬授業やグループワークによる発表がある科目や、授業の場でしか使用できないアプリを扱う科目、実技を伴う科目では、代替が難しいと言われ、学生の中には、ある科目の教員は対応してくれるのに、この科目の教員は対応してくれないという受け止めになっていることもあった。なんでも学生の希望が受け入れられることは合理的配慮ではないうえ、教員側がオンライン課題を出すことが過重な負担であると考えれば、合理的配慮とはならない。また、科目の特性を鑑みた時には、オンラインでは妥当な教育効果が得られない場合は、合理的配慮とはならない。前年度までがオンラインと対面のハイブリッド授業が多く占めていたこともあり、2022 年度前期になっても、私用で通学は難しいがオンラインなら時間的に受けられるというような理由で、安易な気持ちで教員にオンライン対応を求める学生がいたことも報告されたため、2022 年度後期に配慮依頼文および情報提供書の配布にあたっては、科目を担当する教員に宛てて、障がいのある学生がオンラインでの代替課題ありきで配慮を求めた場合には、教務課が年度当初に提示した、「2022 年度は原則対面授業である」ことを前提に、オンラインの代替課題では目標達成ができない科目では、対応ができない理由をていねいにご説明いただけるよう周知をはかった。

(2) 情報保障技術の継承のありかたと今後の支援協力学生の研修体制の整備に向けて

2022年度は、PC テイクによる情報保障を必要とする聴覚障がい学生が減少し、またその学生も教育実習や卒業年度ということで、PC テイクを実施する科目数も極端に減少した。そのため、PC テイクを行う支援協力学生が活躍する場面も限られてしまった。コロナ禍において、これまで対面で行われることが当たり前であった式典や全学シンポジウム等の場面が、オンラインとなっていたことで、それらの場面で CaptiOnline による PC テイクは前年度より取り組みが始まっていたが、これらの場面でも、積極的に新規支援協力学生が、支援協力学生の先輩から技術を継承する場とするためにメンバーの募集を行い、積極的に取り組めるように調整を行った。また、授業での情報保障の PC テイクについては、これまで 2 人態勢でテイクを行っていたが、3 人態勢のテイクにするなどを行い、テイク技術の継承の場面についても考慮した。

上記のようなこともあり、支援協力学生の研修体制の見直しを行っていくこととして、2023 年度の研修開始に向けての調整を行った。支援協力学生の名称変更や、研修ステップの再編、ピア・サポートの内容が含まれる学生プロジェクトへの参加のしやすい体制づくりなどが想定されている。

(3) 保護者対応

学生本人からの申請や相談ではなく、保護者から支援ルームに対して、配慮について強い配慮の要望を求めるケースが見られはじめたうえ、本来であれば家庭での問題が原因であることに對しても配慮や支援を求めるケースが出てきた。また、関係部署への問い合わせの際には、障がいがあるのではということを申し出ることによって、各部署は支援ルームでの対応を求めるものだにとらえられ、こちらにつながってくるものの、結果的には支援ルームでは対応できない学生に割り当てられている成績や学修のシステムへのログイン情報や、そのログイン ID の発行を求めるといった内容が含まれていた。

本来、障がい学生修学支援ルームは学生の学修に対して、学生本人からの申請に基づいて合理的配慮の調整を行う部署であり、学生の意思をまったく抜きにした保護者対応は想定されていない。この点について、関係部署間での情報共有の在り方や、学生の意思を確認できない状態での保護者からの配慮の要望が強い場合の対応について整理が必要となった。

Teams に学生支援ネットワークのチームを作成し、学生ごとにプライベートチャネルで関係部署の教員や、係員、指導教員らで、保護者からの問い合わせの情報も含めて、共有していくこととなった。

2022 年度（令和 4 年度）カウンセリングルーム活動報告

カウンセラー 奥田紗史美

1. はじめに

令和 4 年度は、修学支援センター発足後 3 年目を迎え、COVID-19 の対策は日常の一部となった。授業は対面が基本となり、オンライン授業や課題、スケジュール管理に苦労していた学生たちのなかには、毎日大学に通う生活リズムに再適応し、周囲からの刺激を受けることで修学上の困難感が緩和していくものもいた。その一方で、対人関係上の困難さや、修学意欲の低下、昼夜逆転などに悩む学生たちにとって、遠隔、特にオンデマンド形式の減少と対面形式の復活は新たな問題を生じさせたようである。また、通学だけでなく、課外活動などにも体調管理が欠かせないが、自粛生活に順応してしまったメリハリに欠ける生活リズムを修正するだけでも、一部の学生にとっては苦痛が伴うようだった。どのような環境と相性があるか、また、変化への適応性や順応性は個人差がある。大学生活という人生のうちでも特に変化の多い時期に、ポストコロナへの移行期が重なってしまった学生たちから、多様な不調感の訴えがあるのも当然のことと言える。

このような事態に対応するため、カウンセリングルームでは令和 3 年度までと同様に、対面での相談に加えて、電話とオンライン（Zoom）での遠隔相談を継続した。遠隔相談については希望制とし、対応した。従来対面での相談に来ている学生が、適宜オンラインを希望するハイブリッド方式も実施し、多くの学生が自分の事情に合わせて相談方式を選択した。

2. 利用状況

以下に令和 4 年度のカウンセリングルーム利用状況を報告する。

（1）年間相談状況

表 1 に、月別の新規来談者を相談内容別に分類し、再来談（終結後、別の主訴で改めて来談）と前年度より継続の来談者数とあわせて示した。述べて面接回数も月別に集計し、同表内に示した。令和 4 年度の新規来談者は 109 名、再来談は 12 名、前年度からの継続が 25 名であり、令和 3 年度とほぼ同様の傾向であった。新規申し込みは、前期開講期間中は早い時期から 7 月までコンスタントにあり、夏休みに入ると落ち着いた。後期はそれに比べるとやや低調であり、特に 10 月が低調で出足が遅い印象である。全体像は例年通りであるが、昨年に比べると、前期中の利用が比較的多い。

表1 令和4年度 カウンセリングルーム 月別・相談内容別・来談年次別来談者数および面接回数(柏原・天王寺キャンパス)

令和5年3月31日現在

	新規来談者数							再来※	前年度から 継続	総合計	延べ 面接回数
	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	合計				
4月	5 (3)	1 (1)	4 (3)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	12 (8)	0 (0)	23 (17)	35 (25)	78 (52)
5月	5 (4)	4 (4)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	15 (12)	1 (1)	2 (1)	18 (14)	76 (57)
6月	4 (4)	1 (0)	4 (3)	1 (1)	3 (2)	2 (0)	15 (10)	6 (3)	0 (0)	21 (13)	128 (84)
7月	2 (1)	4 (2)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	3 (1)	13 (7)	2 (2)	0 (0)	15 (9)	92 (58)
8月	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (1)	63 (23)
9月	1 (1)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (3)	46 (24)
10月	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	67 (43)
11月	2 (1)	1 (1)	4 (3)	2 (2)	1 (0)	1 (0)	11 (7)	1 (1)	0 (0)	12 (8)	73 (44)
12月	2 (1)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	8 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (5)	85 (51)
1月	2 (2)	3 (1)	2 (0)	3 (0)	1 (1)	0 (0)	11 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (4)	88 (47)
2月	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (2)	68 (41)
3月	4 (3)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (8)	1 (1)	0 (0)	11 (9)	70 (45)
計	29 (21)	22 (16)	24 (16)	11 (6)	12 (7)	11 (4)	109 (70)	12 (9)	25 (18)	146 (97)	934 (569)

()内は女子

※再来:一旦終結後、別の主訴で来談したこと

表2に、学生の所属別に、相談内容を集計したものを示した。また、在籍者数に対する来談者率を示した。相談内容としては、特に進路修学に関する相談が多くなっており、次いで心理性格、対人関係が多くなっている。

表2 令和4年度 カウンセリングルーム 課程等別・相談内容別来談件数および来談率(柏原・天王寺キャンパス)

令和5年3月31日現在

	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	計	在籍者数	来談者率(%)
教員養成課程	12 (8)	16 (12)	15 (9)	10 (6)	4 (2)	2 (1)	59 (38)	2006 (1082)	2.94% (3.51%)
教育協働学科/教養学科	21 (11)	13 (11)	10 (8)	5 (4)	7 (3)	0 (0)	56 (37)	1480 (809)	3.78% (4.57%)
初等教育(天王寺)/第2部	4 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (7)	446 (279)	1.79% (2.51%)
学部計	37 (23)	30 (23)	25 (17)	16 (11)	13 (7)	2 (1)	123 (82)	3932 (2170)	3.13% (3.78%)
大学院	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	355 (169)	1.13% (2.37%)
特別支援教育特別専攻科	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	23 (16)	4.35% (6.25%)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	11 (4)	13 (6)		
卒業生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	3 (2)	5 (4)		
計	40 (26)	30 (23)	27 (19)	17 (12)	16 (10)	16 (7)	146 (97)	4310 (2355)	3.39% (4.12%)

()内は女子

表3に、学年(回生)別の来談件数と延べ来談回数を男女別に示した。例年通り女性の方が件数、回数ともに多く、女性の被援助指向性が高さを反映している。回生別では3回生以降の利用が多く、過年度生の利用も多くなっている。

表3 令和4年度 回生別来談件数および来談回数

令和5年3月31日現在

来談者内訳	来談件数			来談回数		
	男	女	計	男	女	計
1回生	3 (3)	12 (12)	15 (15)	24	47	71
2回生	8 (5)	16 (11)	24 (16)	84	74	158
3回生	8 (6)	24 (15)	32 (21)	37	169	206
4回生	11 (10)	17 (13)	28 (23)	83	70	153
5回生以上	10 (8)	6 (4)	16 (12)	115	91	206
初等教育(天)/第2部	1 (1)	7 (4)	8 (5)	7	65	72
大学院1回生	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0	3	3
大学院2回生	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0	11	11
大学院3回生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0	0
特専	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0	5	5
留学生(内数)	6 (6)	6 (5)	12 (11)	57	38	95
その他	8 (6)	10 (6)	18 (12)	15	34	49
計	49 (39)	97 (70)	146 (109)	365	569	934

()内 新規来談者数

表 4 に回生別の相談内容を集計して示した。この表からみると、3 回生以降の学生が、卒業を見越した進路に関する相談を理由に多く来談していること、特に過年度生の卒業に向けた修学や卒後の進路に関する相談が多かったことがわかる。

表4 令和4年度 来談者の回生別相談内容

令和5年3月31日現在							
区分	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	計
1回生	4 (4)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	15 (15)
2回生	4 (1)	5 (2)	8 (8)	5 (3)	2 (2)	0 (0)	24 (16)
3回生	8 (6)	5 (2)	6 (5)	7 (5)	4 (2)	2 (1)	32 (21)
4回生	7 (6)	10 (8)	5 (3)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	28 (23)
5回生以上	10 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	16 (12)
初等教育(天)/第2部	4 (3)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	8 (5)
大学院1回生	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
大学院2回生	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
大学院3回生以上	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
特専	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
留学生(内数)	4 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (0)	3 (3)	1 (1)	12 (11)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (2)	14 (10)	18 (12)
計	40 (29)	30 (22)	27 (24)	17 (11)	16 (12)	16 (11)	146 (109)

()内 新規来談者数

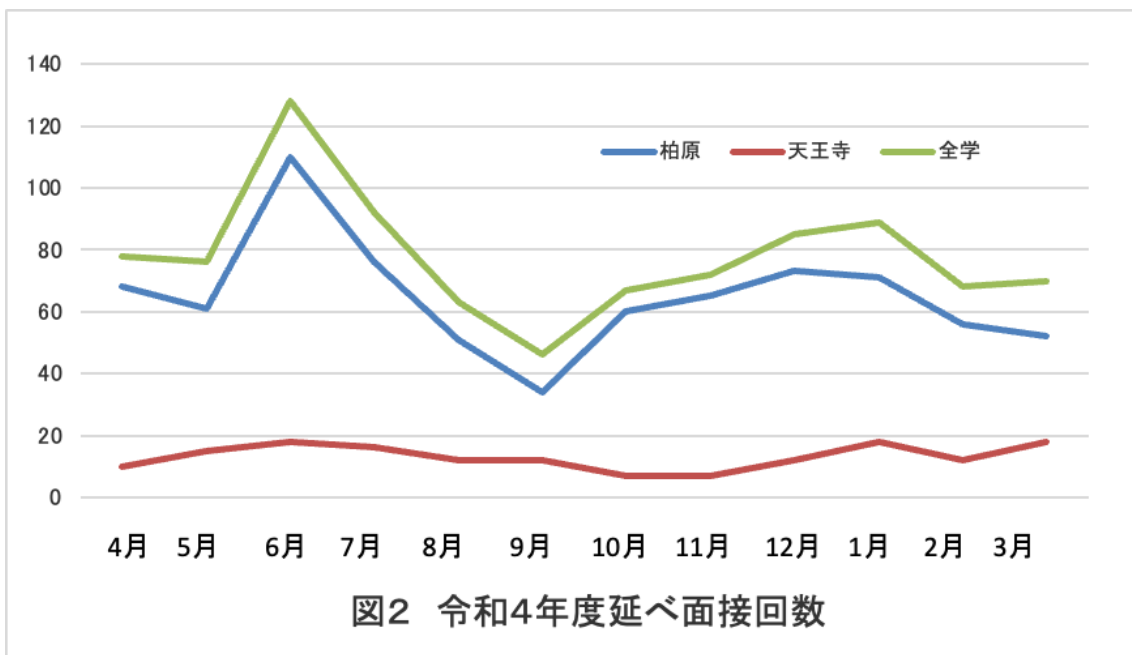
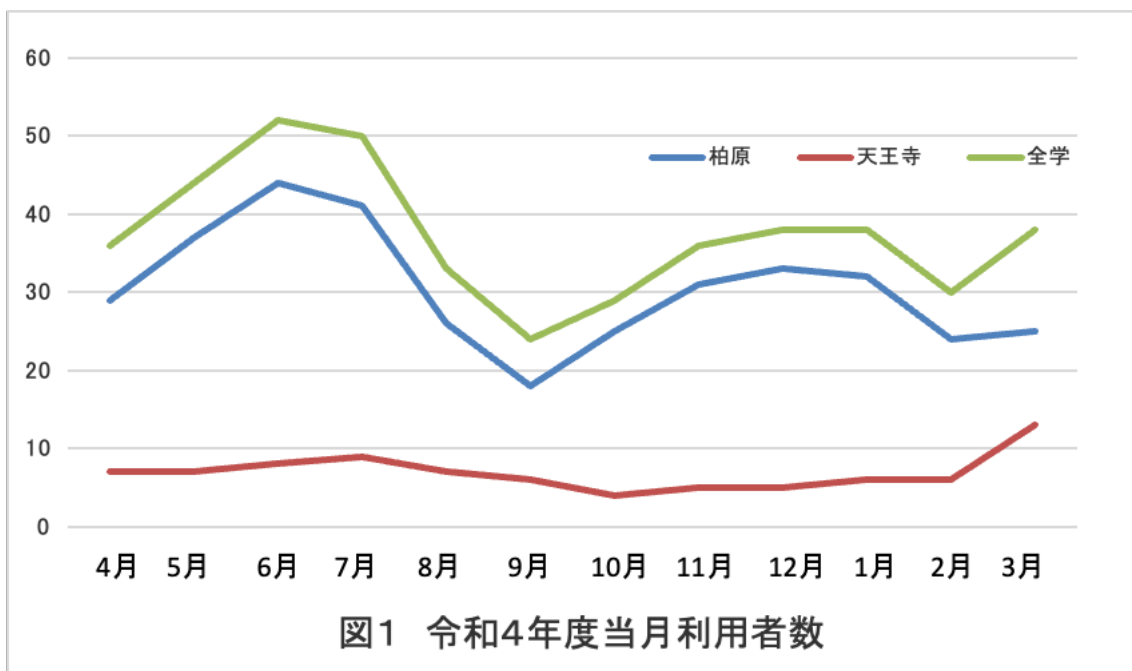
表 5 は、月別の利用状況をキャンパス別に示したものである。図1にそのうち利用者数の月別推移を、図2に同じく述べ面接回数の推移を示した。

長期休み中に来談が落ち込む M 字型であり、これは例年通りの傾向である。単純に、キャンパスに学生がいるときは、稼働率が高い。また、冬休み中は利用者が少なくなるのが例年の傾向であるが、令和4年度は天王寺の3月の利用者が多くなっており、柏原も下げ止まっている。令和5年度（今年度）4月以降も新規申込者が多くなっており、先に述べたように、例年よりも早い段階の春先から来談者の増加傾向が続き、後期は比較的低調であった。

表5 令和4年度カウンセリングルーム月別利用状況

	新規利用者数			当月利用者数			延べ面接回数			遠隔相談(電話・メール等)		
	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学
4月	10	2	12	29	7	36	68	10	78	7	0	7
5月	14	1	15	37	7	44	61	15	76	3	0	3
6月	13	3	16	44	8	52	110	18	128	11	1	12
7月	9	4	13	41	9	50	76	16	92	6	3	9
8月	1	1	2	26	7	33	51	12	63	7	6	13
9月	3	0	3	18	6	24	34	12	46	9	5	14
10月	3	1	4	25	4	29	60	7	67	10	1	11
11月	10	2	12	31	5	36	65	7	72	10	3	13
12月	6	1	7	33	5	38	73	12	85	9	6	15
1月	10	1	11	32	6	38	71	18	89	9	8	17
2月	3	1	4	24	6	30	56	12	68	13	2	15
3月	4	6	10	25	13	38	52	18	70	11	4	15

※遠隔相談件数は内数



(3) 経年変化

図3に、統計を取り始めた平成19年から令和4年度までの、来談件数、来談率、延べ来談回数の経年変化をグラフとして示した。来談者率は過去最高値であった。来談件数、延べ面接回数も昨年度とほぼ同じ高い値を示している。多くの学生が利用したことを示している。コロナ禍で遠隔授業が中心だった令和2年度の落ち込みから来談率や延べ件数などは回復していることがうかがえる。

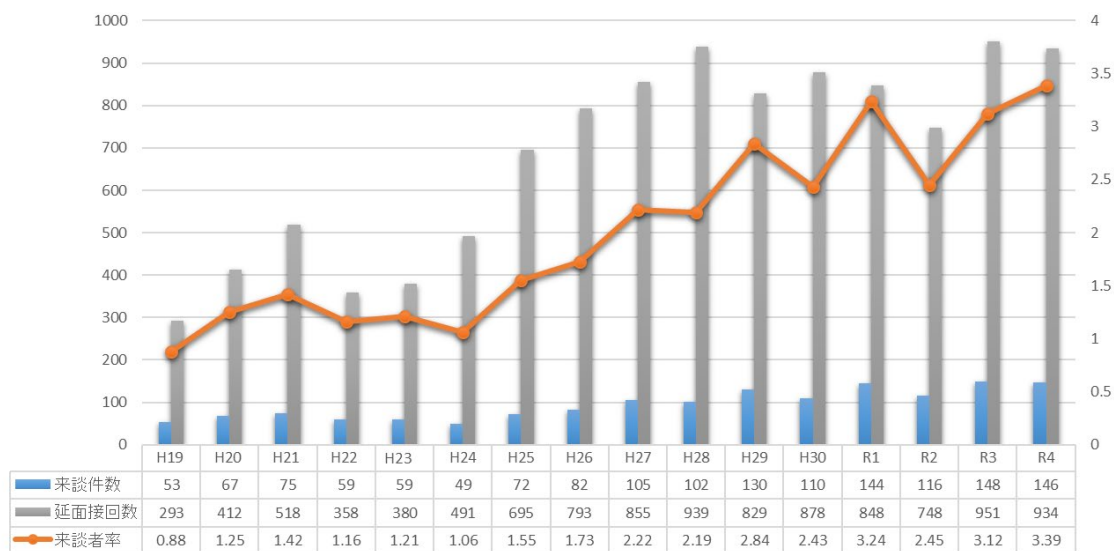


図3 来談件数, 述べ面接回数, 来談者率の推移(年)

以上、カウンセリングルームで実施している個別面接での心理支援（コンサルテーション、心理療法など含む）の集計結果を示した。個別対応では掬い上げられない学生への支援は、修学支援センター全体の取り組みとして別途報告する。

COVID-19 の流行以降、人の行動様式が様々に変更を余儀なくされたあと、揺り戻しのように元の生活に戻る動きが加速している。これから先、入構制限、全面オンライン授業のような劇的な状況の変化が起こることはないとしても、中学・高校と思春期をコロナ禍で過ごした学生たちが、入学後、キャンパスライフや、その喧騒、対人関係などに適応する過程で中長期的な影響が顕在化する可能性はある。今後もその点に注視しながら個別相談を展開していきたい。

2022年度（令和4年度）活動報告総括

コーディネーター 茂野仁美

小馬加奈子

カウンセラー 奥田紗史美

はじめに

修学支援センターの障がい学生修学支援ルームおよびカウンセリングルームの2022年度（令和4年度）活動報告をうけ、総括する。コロナ禍から対面授業への移行期である2022年度は、支援ルームでは、精神障害を理由とした配慮申請が増加し、特に対面授業での不調感の訴えやそれに伴うオンライン対応の要望が相次いだ。カウンセリングルームでは、対人関係上の悩みなど、青年期ならではの相談が復活し、むしろ通常運転に近づいた印象であった。また、Zoomなどを用いた遠隔相談のメニューを継続し、利用学生のニーズに応じて遠隔でも支援を提供できる体制を維持した。

修学支援センターでは、それぞれのルームの活動の枠を超えて、センター全体での支援活動も企画実施している。以下に、ワークショップ（時間管理・自己理解）、大教FIKA、大教FIKA特別プログラム（サツマイモプロジェクト）、FD研修の各活動の報告を行う。

ワークショップ

1) 時間管理ワークショップ

昨年度実施して好評だった時間管理ワークショップを今年度も実施した。今年度は前期の5月18日と25日（いずれも水曜日。柏原キャンパス）と、後期の11月17日と24日（いずれも木曜日。天王寺キャンパス）の2回に分けて、全学生向けに開催した。いずれも1回目が基礎編、2回目が応用編の2週連続開催で、オンラインによる事前予約を行った。柏原キャンパス開催時は6名、天王寺キャンパス開催時は5名の事前申し込みがあった。

柏原キャンパスでは、教育学研究科心理・教育支援コースの大学院生3名が、天王寺キャンパスでは、教育心理科学部門（修学支援センター兼担）の寺坂明子准教授が当日の講師を担当した。センター担当教職員から、茂野・小馬・奥田が、天王寺開催時は天王寺のカウンセリングルーム担当カウンセラーの郭がスタッフとして、当日の設営、準備、ワークの補助を行った。当日は少人数ならではのアットホームな雰囲気、自らの時間の使い方を振り返り、空いた時間にタスクを入れこむ作業したり（基礎編）や、タスクを細かく分解していく方法を学んだり（応用編）、有意義な学びの時間となった。

修学支援センター主催



大学生のための 時間管理 ワークショップ

@ 天王寺キャンパス



大学生活では大学の授業や課題はもちろん、アルバイト、サークル、趣味の活動など、たくさんのタスクやスケジュールを自分で管理し、こなしていく必要に迫られます。とくに天王寺キャンパスの学生さんのなかには、学業と仕事の両立に難しさを感じている人も少なくないのではないのでしょうか。

このワークショップでは、心理学をベースにした時間管理とタスク管理の考え方やコツと一緒に学びます。基礎編・応用編と2週にわたって開催しますが、基礎編のみの参加も歓迎します。お一人で、またはお友達と一緒に、ぜひ積極的にご参加ください。

※昨年度の後期に柏原キャンパスで実施した内容と同様のものです。

日時: 2022年11月17日(木) 5限(16:25~17:55)
24日(木) 5限(16:25~17:55)

場所: 天王寺キャンパス 中央館 215

内容: 基礎編(17日) 時間とタスクの見える化
優先順位づけ など
応用編(24日) 難しいタスクの分解
スケジュールの組み立て など

※ 参加定員 30名

スタッフ

奥田紗史美
(カウンセリングルーム)

茂野仁美
(障がい学生修学支援
ルーム)

寺坂明子
(教育心理科学部門)



<https://forms.gle/RFcqh8ziUMEvLgkF6>

参加希望の方は、右のGoogle formより
お申し込みください。
当日時間になるまで参加申し込み可能です。
(大学アカウントでの認証が必要です。)

参加者の方にワークショップに関するアンケート調査へのご協力をお願いしています。
詳細は申し込み後にご案内のメールを差し上げます。
なお、アンケート調査にご協力いただかない場合でも、ワークショップへのご参加は可能です。

本件に関する問い合わせ先
大阪教育大学修学支援センター sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp (072-978-3479)

資料1 時間管理ワークショップフライヤー(後期開催分)

2) 自己理解ワークショップ

今年度はさらに、心理・教育支援コースの大学院生の企画立案及び進行で、心理テスト(TEG3)を用いた自己理解に関するワークショップも開催した。3月10日金曜日の午後天王寺キャンパスで開催した。春休み期間中であつたにもかかわらず、飛び込み参加も含めて15名の参加があつた。柏原キャンパス所属の学生も多く参加した。当日は、講師の大学院生3名のほか、時間管理ワークショップ同様、センターからは茂野、小馬、奥田がスタッフとして参加し、教育心理科学部門からは、石橋正浩教授と寺坂明子准教授(兼任)が参加した。参加者からは積極的な質問もいくつか飛び出し、そのことでより内容が深まり、充実

したワークショップとなった。



修学支援センター、教育学研究科心理・教育支援コース共催ワークショップ

心理テストによる自己理解

—自分の性格や行動パターンを知ろう！—

日時：2023年03月10日（金）13:00～14:00
場所：大阪教育大学天王寺キャンパス 本館212

自分の長所や短所を知っておくことは、就職活動や人間関係において役に立ちます。本ワークショップでは、エゴグラムという心理テストを用いて自己分析をします。心理テストに興味がある人、自分のことをもっとよく知りたい人、就職活動を始めるにあたり自己分析を深めたい人、是非ご参加ください！

【ワークショップの内容】

- ① 導入：性格やパーソナリティについての概説
- ② 心理テスト実施：心理テスト（TEG3）に回答
- ③ 結果の整理と解釈：テストの結果から性格を読み取る
- ④ 応用・まとめ：日常生活への応用の仕方について学ぶ

※ 教育学研究科心理・教育支援コースの大学院生がファシリテーターをつとめます。

参加を希望する方は、右のQRコードあるいは下記リンクから申し込みをしてください。申し込みは当日でも構いませんし、飛び入りでの参加も歓迎です。
<https://forms.gle/fBzz1hk8KfkR29aZA>



問合せ先：大阪教育大学修学支援センター（072-978-3479）
sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

資料2 自己理解ワークショップフライヤー





資料3 自己理解ワークショップ当日の様子

居場所活動（大教 FIKA）

カウンセリングや修学支援といった専門的支援ではなく、より気軽に利用できる居場所支援として、今年度も昨年度に引き続き、大教 FIKA を開催した。N 棟カウンセリングルーム横の学生相談室を週 1 回開放し、ランチやお茶（お湯の準備有。セルフサービス）、おしゃべり、休憩など自由に過ごしてもらえるスペースとした。昼のスペース（パテーション有り）や各種ゲーム、漫画、ヨギボーなどくつろげるグッズも導入し、環境づくりも行っている。開放日には教育・心理支援コースの院生と教員が在駐し、利用学生が安心して過ごせるよう見守ったり、話し相手になったりと適宜対応した。2022 年度は、開講期間中は教員スタッフが 2 名以上常駐できる日は開室することを原則とした。学生に向けて月初めにライブキャンパスやメール、ツイッターなどで開室日の広報を行った。利用者は各日約 1～2 名程度であったが、中にはリピーターとなる学生もあり、居心地の良さが評価されたのではないと思われる。開室日は、前期が 4 月 20 日、27 日、6 月 1 日、8 日、15 日、29 日、7 月 6 日、13 日、27 日、後期は 10 月 12 日、19 日、26 日、11 月 16 日、12 月 14 日、21 日、1 月 11 日、25 日であった（5 月はワークショップのため開室なし）。



資料4 大教 FIKA フライヤー

大教 FIKA 特別プログラム サツマイモプロジェクト

大教 FIKA の特別プログラムとして、活動を通して人とのつながりをつくったり、作業を行い心の整理ができたりすることを目的とし、教材園にてサツマイモの栽培活動を行った。6月20日に植え付け作業、10月25日、28日に芋ほり作業を行った。また、1か月に1回ほど（不定期）に水やりや草取りなどの活動を行っていた。植え付け作業には学生5名、芋ほり作業には2日間で47名が参加した。特に芋ほり活動においてはSNSやLive Campusを活用した広報ができ、多くの学生の参加につながった。芋を掘るという作業をきっかけにコミュニケーションが広がっている様子がみられた。



資料5 サツマイモ掘り当日の様子



資料6 サツマイモ掘り案内フライヤー

令和4年度修学支援センター主催 FD 研修

2022年11月30日(水)「指導困難な学生に対する理解と支援～教員アンケートと文科省事業の結果から～」をテーマに、令和4年度修学支援センター主催FD研修を行った。本学教職員を対象に、Zoomによるオンライン形式にて開催した。参加者は教職員合わせて107名であった。報告は、カウンセリングルームより奥田、修学支援ルームより茂野が行った。

研修は副題にあるように2つのトピックから構成した。まず1つ目のトピックは、2021年度後期(12月)に本学の常勤教員を対象に、教員への学生支援に関する理解促進や今後の教員へのサポート体制強化につなげることをねらいとして、支援の必要な学生や対応に

困った学生への対応について尋ねるオンラインアンケートを行った結果のフィードバックである。さらにアンケートの結果を踏まえ、教員個人レベルでの対応例や、カウンセリングルームおよび障がい学生修学支援ルームの両ルームへの接続および行える対応についての説明を行った。対応に困難さを感じた学生がいる（いた）と回答があったのは、125 件の回答中の 69%に上った。自由記述からは、何らかの対応は行われており、その中ではすでに修学支援センターの利用を学生に勧奨したケースや、教職員間での連携、保健センターの利用・連携などが挙げられていたが、学生と連絡が取れない・伝わらないというケースもあり、この場合にはアセスメントが必要であるので、教職員が修学支援センターを利用し、一人で抱え込まずに相談することをよびかけた。また、発達障がいの学生の修学については、授業場面でご理解いただきたい内容についての周知を行った。さらに、指導困難とされる学生によくみられる状態から、修学支援センターのどちらのルームを勧奨したり、相談したりすべきかをまとめたチェックリストを作成し、活用を呼びかけ、HP への公開を行っている。

また、修学支援センターHP より、教職員専用相談申し込みフォームの公開も行っている。

学生にこんな様子 見られませんか？

修学支援センターのHPからダウンロードできます

年度当初に配布しているサポートハンドブックと合わせてご活用ください
※サポートハンドブックは支援ルームのページからもダウンロードできます。

資料7 チェックリストの案内

2 つ目に、令和 3 年度に文部科学省委託事業「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」教育実習に参加する障がいのある学生に対する合理的配慮の在り方の検討に関する調査研究より、「障がいのある学生の教育実習における合理的配慮に関する対応マニュアルとチェックリスト」について報告と、これまでに修学支援センターが取り扱った事例の報告を行った。この「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の概要は「教職課程を置

く大学等に在籍する障害のある学生が教育実習に参加する際の支援を検討するにあたり、障害のある学生に対して配慮すべき事項を明らかにすることを目的に、教育実習担当部署及び障害学生支援室等の専門部署・相談窓口の教員等にインタビュー調査を行った。その結果をもとにして、障害のある学生が教育実習に参加するにあたって配慮すべき事項をまとめたマニュアル及びチェックリストを作成し、公開した。」である。調査対象の大学に在籍している障がい学生の障がい種別ごとの割合の半数は精神障がいや発達障がいの学生であり、これは本学の修学支援ルーム利用学生の障がい種別割合とも整合性があり、また日本学生支援機構の「障がいのある学生に関する実態調査」の結果とも一致し、学内の座学の場面だけでなく、実技や実習も対象として支援に取り組む必要のある事柄である。この対応の在り方について、対象の大学からのインタビューをもとに、各障がい種別ごとの対応マニュアルを特別支援教育部門の教員など、各障がい種別を専門とする教員の監修のもと作成しており、本学の教職員でのマニュアルの活用の周知を図った。

FD 研修後のアンケートには 63 件の回答があり、テーマに対する満足度は、5 点満点中 4.2 であり、内容に対しては 4.08 点の回答を得た。自由回答からは、「具体的な事例や対応方法を聞きたかった」という回答が見られ、今後の課題としてどのように発展させて FD などでのさらなる教職員への理解増進と周知につなげていくテーマとしていくか検討が必要である。

修学支援センター主催 全学FD事業

指導困難な学生に対する 理解と支援

～教員アンケートと文科省委託事業の結果から～

2021年度後期に実施した教員向けのアンケートの結果をもとに、
本学の教員が学生への対応でどのような困難を感じているのか、
またどのように部門内や支援部門と協働しているのか、
どのようなニーズがあるのかについて報告します。

2021年度文部科学省委託事業
「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」
において、調査を行い作成した
「障がいのある学生の教育実習における合理的配慮に
関する対応マニュアルとチェックリスト」について、
修学支援ルームで行っている支援の実践例をもとに概要を説明します。



日時： 11月30日(水) 13:30～15:00
形式： オンライン開催



下のURL、またはQRコードから事前申し込みをお願いします。
https://us06web.zoom.us/join/register/tZlqdOjurzojH9DdpJQDgImyitp_sySqWCKO

主催： 修学支援センター
共催： ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会
問合せ先： 修学支援センター 障がい学生修学支援ルーム
TEL： 072-978-3479
E-mail： sienroom@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

資料8 FD 研修フライヤー

令和4年度 修学支援センターの活動報告

	修学支援センター	障がい学生修学支援ルーム	カウンセリングルーム
4月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動)	入学式対応 オリエンテーション対応 授業担当教員への配慮依頼 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	オリエンテーション対応 教育実習オリエンテーション【オンライン】
5月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動) 時間管理ワークショップ	支援協力学生(在学生対象)ガイダンス(前期) 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議 支援協力学生(候補生)のための研修	学生相談学会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
6月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動)	支援協力学生(候補生)のための研修 アクセシビリティリーダー育成協議会総会 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	
7月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動)	近畿地区障害学生支援協議会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議 オープンキャンパス対応	
8月	修学支援センター会議	障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議 支援利用学生と個人面談実施	NAS研究会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
9月	修学支援センター運営委員会(第1回) 修学支援センター会議	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 支援協力学生(在学生対象)ガイダンス(後期) 支援利用学生と個人面談実施 支援利用学生の教育実習対応 関西障がい学生支援担当者懇談会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	
10月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動)	支援利用学生と個人面談実施 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
11月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動) 時間管理ワークショップ	近畿地区障害学生支援協議会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	学生相談全国研修会
12月	修学支援センター会議 FD研修 大教FIKA(居場所活動)	人権シンポジウム対応【オンライン】 アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 アクセシビリティリーダー認定試験【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
1月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動)	障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	全国学生相談研究会議【オンライン】
2月	修学支援センター会議 大教FIKA(居場所活動)(4回)	支援協力学生リーダーズ会議 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	NAS研究会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
3月	修学支援センター運営委員会(第2回) 修学支援センター会議 時間管理ワークショップ	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 学位記・修了証書授与式対応 支援利用学生(入学予定)と個人面談実施 指導教員説明会 障がい学生修学支援ルーム会議 支援協力学生リーダーズ会議	指導教員説明会 保健センターミーティング
備考	修学支援センター会議は 月に1回開催	障がい学生修学支援ルーム会議は月に1回開催 支援協力学生リーダーズ会議は月に1回開催	カウンセリングルーム連絡会は 概ね2ヶ月に1回開催

修学支援センター スタッフ一覧(令和4年度)

氏名	職名	所属
大内田 裕	センター長	特別支援教育部門
奥田 紗史美	カウンセラー (柏原担当)	養護教育部門
山口 修一郎	カウンセラー (柏原・天王寺担当)	非常勤
郭 知陽	カウンセラー (天王寺担当)	非常勤
中田 玲奈	カウンセラー (天王寺担当)	非常勤
茂野 仁美	コーディネーター (柏原担当)	学校教育部門
小馬 加奈子	コーディネーター (天王寺担当)	学務部学生支援課
他 障がい学生修学支援ルーム担当職員2名(所属:学生支援課)		

大阪教育大学 修学支援センター 活動報告書 第3号

発行日 令和5年8月1日

発行者 大阪教育大学 修学支援センター

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1

(代表)072-976-3211
